
一夏「エクソシスト？」

リスト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一夏「エクソシスト？」

【Nコード】

N2318X

【作者名】

リスト

【あらすじ】

一夏がエクソシストになったら・・・という青エクとのクロス小説です。

なお、青エクの主要人物は出ません。知識もほぼ不要。

また、最強設定など厨二設定であまりにひどいものは作らない予定。少なくとも味方では

原作の意味不明な部分の補完もするつもりですが、原作者が「気にするな」って言う始末なので限界もあります。詳しいことは注意書

きを見てください

ノノゴリやっつていくのでよろしく

基本事項と弁解

この小説はインフィニット・ストラトスの二次創作小説、および青の被魔師とのクロス小説になります。

とはいえ、主体となるのはISの方で青エクの方はごく一部の登場人物と設定に限ってのみの参戦で主人公および深い友好関係のある人物は一切登場しません。

ダブル主人公ほど扱いづらく、読みづらいものはないですから

それから舞台はIS原作の3巻に該当する場面から始まります。原作持つてなくてわからんという人はアニメでラウラがデレた場面からだと理解してください。

1巻の二次創作品多すぎて俺はおなかいっぱいです。
そもそも2〜7巻しかもってません。

それから大切なことですがこの小説では「オリ主」「主人公チート」「チートIS」は登場しません。少なくとも味方では出ないです。
嫌いなんで

原作の意味不明なところは逐一自分ならではの解釈でなんとか解決していきたいとは思いますが、物理学が出来る人間でないのですからへんは多めに見てください。

とくに1巻2巻で「意味わからね」ってなったところはもう原作がズブズブの穴だらけのせいなので塞ぎ切れなかったりします。そこらへんは苦笑で勘弁してください。

（原作者ですら投げ出す始末）

後述でこの小説における基本設定やISの解釈の一覧を載せますの

でそちらも合わせてご覧下さい。
では黒歴史でもつくりにかかりますか？

基本事項と弁解（後書き）

こんな感じでやっていきたいと思います。ちなみに作者は遅筆です
ので一月に一回更新されたらいいほうだと思ってください。最悪ク
オリティの低下につながるので申し訳ありません。
それではこれからよろしくおねがいします。

設定と解釈とそれから弁明（随時更新）（前書き）

今回はQ&Aと物語の基本設定・・・というかルールだけ挙げておきます。

本文は次回からになります

なお一部アンチスレからの抜粋になっております。

設定と解釈とそれから弁明（随時更新）

Q そもそも女尊男卑の世界観ってどうなの？

A 実際には女尊男卑じゃないです、実際に原作でも普通に男は扱われます。一部の基地外女が勘違いしてるだけ

Q I S の歩行訓練があるのに入試で模擬戦する理由わからん。初心者狩り？

A そういうことだ。

教師「ナメとつたらどういいう目に合うか覚えておけよ」

Q アニメで髪がなびいてるため空気抵抗や慣性はあるんじゃない？

A それはアニメの演出ってことで。そもそも空気抵抗があるならバリア意味ないし、高速で飛行したら呼吸どころじゃない。

Q セシリア、ラウラちよろすぎね？

A 俺も意味不明。手の出しようがない

Q シャルなんで正体ばらした・・・

A 一夏「あいつ意味わからん」

Q 360度視界が意味不明

A 後ろにもカメラがついてる、と理解して。流石に同時には見られない

Q 3 巻 p 2 1 5 に具現維持限界すると武装および行動全般が出来なくなるって書いてあるんだけどどうなの？行動エネルギーもシールドエネルギーなの？

A 確かに原作を読むとそのようです。1巻でセシリアから攻撃喰ら

ったときの計算がずれます。

1分も動かしてないのに上限600の内の10近くシールドが減ってます。その調子で27分も耐え凌ぐとか無理だろjk。また後述の瞬時加速でも不都合が出ますので死に設定にします。詳しいことは後述の設定をご覧ください。

（ちなみにアニメで紅椿の上限は800と表示されています。察するにISごとに上限が違うと思われ。じゃないと1分の飛行でシールド210消費と無傷で3分飛べない機体の出来上がり）

QラウラなんでIS出来る前から試験管で作られたの

Aわからね。ドイツ軍がアホなのか預言者でもいたんじゃね？

Qなんで世界中が白騎士に一斉攻撃したの？

A首脳陣の頭がマシユマロ

Q戦争の抑止力としての意味を持たせるために通常兵器や戦闘機との戦闘

全世界が一斉に攻撃つてのがまずオカシイ

人的被害とか考えるなら、まずは資源的に日本を攻撃するのがセオリ

（アンチスレより抜粋）

A国のトップがバカなら軍もバカ、普通は外交圧力。んでもって日本からも締め出し指名手配。

Q東なんで天才なのに欠陥機しか作らないの？

A上のみたいな人間が首脳やってる世界における天才だからな。あとはわかるな

Q一夏「ねえちゃんの真似すんな」ってなんかの冗談なの？つい最近まで剣道すらやってなかった奴なのに。

A シスコンな上にバカなんだよ。言わせんな恥ずかしい

Q 瞬時加速って後ろからエネルギー取り込むのはわかるが、なんで1巻でエネルギー攻撃を取り込めたの？

A 瞬時加速チャージ時は背後が完全に無防備。つまり拳銃一発で死ぬる・・・ごめんこんな解釈しか出来ないわ。

Q 単体で量子変換に自己修復なんて物理法則無視までやらかして生身晒した上でバリアとか意味不明なモノ展開してる時点で聞くだけ野暮
量子変換なんて膨大なエネルギー持ってたエネルギー切れとか笑える
自己修復の欠損部分まで修復する能力を考えると、無から有を生み出す

時点で内包エネルギーは桁違いの筈だが、簡単にエネルギー切れってどうなの？

(アンチスレより抜粋)

A 後述の設定で補完します

Q 毎年120人卒業者出るのに絶対数少なくてね？

A パイロットじゃなくても整備の仕事や兵器開発に携わる。それでも大半はIS関係の仕事に就けない、一般企業にも入れない。それどころか一般の大学にすら進学できない。軍隊、警察、スポーツ選手などになるしかない一攫千金の人生選択

Q 倍率1万倍ってワロス

毎年120万人応募とかww学費0だからみんな適性検査受ける。で8割は評価低くて落ちる。そこからさらにふるいにかけられる・・・
・そう解釈しないとバカじゃね？

Q 発射された2000発のICBMを超高空で1000発は刀で破壊、残り1000発は荷電粒子砲で破壊

すると最初の1000発の弾頭や推進機部分が極東各地にバラまかれ、放射能や推進剤に使われる猛毒の化学燃料があらゆる地域を汚染

一方荷電粒子ビームで弾頭が爆発反応を起こし核兵器1000発分にも及ぶ超電磁パルスが電離層で出現

バーストが起きて日中韓のあらゆる電子機器が破壊され工業的にも致命的な打撃が起こる

そして白騎士事件、太平洋艦隊の壊滅によって米軍の東アジアにおける影響力が低下

そして女尊男卑世界の台頭を嫌ったイスラム過激派が米軍の弱体化を利用して世界規模でのテロを画策し…

リアルに考えるとIS台頭とかそんなレベルの話じゃない地球規模でのピンチに発展するんだがな

(アンチスレより抜粋)

A 現実の地球じゃないんで・・・としか言い訳の方法が思いつかない。

撃墜したミサイルも地球に優しいエコミサイルだったんだろ。じゃないと・・・

とりあえず「この世界では荷電した粒子が高速で移動しても磁場が発生しない」としないと雪羅も使えない、ついでに世界中のミサイルがハッキングされるという物理的に不可能な疑問も同様の理由。

Q 罰でIS着けて走れって言われてるけど無理じゃね？

A 無理です。パワーアシストないので足持ち上がらない。すり足が限界、股関節死亡。

Q そもそも肩のシールドっているの？

A 知らない。スラスターならともかくシールドタイプの打鉄なんかはもつと隠すべきところあるはず。
それよりヘルメットをだな・・・

Q ー夏って強いのか？

A 原作準拠だったら強いわけないだろ。高いのは機体性能のみで戦闘技術はドベ中のドベ。

そもそも効率的な戦い方を学習しない1巻2巻および3巻は見るに耐えない

作品における解釈、設定

この物語で最初に登場しない装備についてもまとめて解説してしまいますがご了承ください。

・現実の世界とは違う地球、じゃないと物理的、量子力学的にうんぬんかんぬん

・PICは重力の影響を受けづらくしたりするものであってそれ自体に推進機能はない、推進するための主な要因はスラスターの推進剤もしくは推進エネルギー

・AICは目の前の空間を圧縮。ゆがみを利用したバリアシステム
マクロスのピンポイントバリアと同じ
イナーシャルってあるけど慣性に関係ない。

・わかりやすく言うとシールドエネルギーは「体力」、稼働エネルギーは「行動力」

零落白夜は「体力」を消費し相手の体力に大ダメージ
展開装甲の紅椿は「行動力」を大きく消費。絢爛舞踏で「体力」「
行動力」共に回復可能

エネルギー兵器やイメージインターフェース兵器（龍砲、ビット）
は実体兵器より行動力を大きく消費。実体兵器は質量や弾数の物理
的制限がかかる。パワーアシストにも「行動力」消費

・絶対防御のエネルギーはシールド、ブースターとまた別に確保さ
れてる。量子化などの莫大なエネルギーもここに含まれる。

エネルギー全体の4割は物体の量子化（インストールできる容量含
め）、2割は絶対防御兼救命領域対応、2割は絶対防御兼シールド、
2割稼動エネルギー

試合ではこの2割の絶対防御兼シールドの部分を削ったら勝利。

シールドエネルギーが消滅した時点で行動不能にするのはスポーツ
としての違反を防ぐ側面もある。（死んだふりして背後から・・・
とか）

というわけで、試合でエネルギー切れになっても最低限勝利者の身
の安全は確保される。あくまで試合ではね。

・ISがシールドを発生させるのは「戦闘状況と判断した際」「シ
ールドの範囲外で攻撃性の力を確認したときなど」

一方「逆に発生しないのは手動で解除」「シールド範囲内での攻撃」
「敵性な行動と取られなかった場合」つまり、パンチは防げるがゆ
っくりと掴み上げての関節技などは不可能

・範囲内での攻撃など不測の事態に備えて操縦者の体中には常に皮
膜装甲があり、これによって多少は軽減される。当然シールドエネ
ルギーを消費

・原作どおりISにはリミッターがかかっているものとする。解除した際に上昇する性能幅については未定。そもそも外すかわからん、かかっている理由もわからん

・白騎士事件・・・死者は0だと言われている。あくまで何も知らない人の噂でな。実際はけっこう死んでる。戦闘機撃墜したときの爆発や、浸水した空母の部屋から抜け出せず溺死など

・コアは永久機関。待機状態なら徐々に充電される感じ。。

・ISの速さ基準。

シルバリオゴスペル・・・時速2450キロ（初版では時速450キロ、一度訂正されて4500キロになりましたが、どちらも異常なので8部の数値を参照）およそマツハ2

高機動BT・・・時速2500キロ（これまた初版で時速500キロと作者が勘違いしてたので訂正します）

・シールドエネルギーダメージ基準

BTのスターライトmk2・・・46

甲龍の龍砲・・・38

（ともに1巻より）

シャルのシールドピアース・・・350（アニメを参考）

設定と解釈とそれから弁明（随時更新）（後書き）

と、いうわけでアンチスレで上がっていた文句・・・というか設定の矛盾などを徹底的に取り上げてみました。

これからも変なところあつたらむりやり解釈していきます。

最後に

「この世界は現実の世界とはなんら関係ありません」
なので多少の物理法則の異常は見逃してね。

IS世界についてのエネルギー解釈（前書き）

まだ本編に入れないとか・・・ひどいな・・・

IS世界についてのエネルギー解釈

・ISのエネルギー解釈

ISにおけるエネルギーとはナノマシンの生み出す架空のエネルギーもしくはナノマシンの総称（原作5巻にてナノマシン登場、およびIS以前にはナノマシンがなかったことから技術革新が起こったと考えられる）

ナノマシンがこの世界における最高峰の技術。

ナノマシンは用途により複数の種類に分かれ、一つの役割をこなす。

『形状記憶、ナノマシン同士の結合分解、エネルギー生成、粒子の放出、分子制御、ナノマシン自身の砲弾化』

ISコア

ナノマシン製造コア。及びナノマシン全体に指示を出すCPUの役割。ナノマシン自体は解明され、その技術を応用出来るが肝心のナノマシンの安定供給がネックとなり、さらに自律進化という複雑なプログラムを極小のナノマシンに載せる技術が不明。

それによりブラックボックスと呼ばれる。

シールドエネルギー

液状のようにIS周囲の漂うナノマシンが圧力により密集、ダイラタンシーのように強固な個体となる。

個体となったナノマシンは消滅する。ダイラタンシーがわからない人は片栗粉を溶かしまくった水に指突っ込んでみて

絶対防御

シールドエネルギーよりナノマシンの密度が高い層。より強固な防

護層となるが、ナノマシンも大量消費

エネルギー兵器

B T兵器：ナノマシンを周囲の粒子を捕まえつつ鎖状に連結、衝突させることにより攻撃。

一点突破型で貫通力が高い

龍砲：空間圧をナノマシンにより制御、放出するいわば見えない口ケツトパンチ。

零落白夜

アンチシールドエネルギーの塊。シールドナノマシンを容赦なく機能停止させるが、反ナノマシン存在をナノマシンから生み出す為エネルギー消費が大きく、放出されたナノマシンが自己のシールドナノマシンも消滅させる

治癒、欠損部位の再生。

登録した人物の最適な状態をナノマシンが記憶し、止血や脳内伝達物質の増加を促す。

欠損部位の再生は止血等とは比較にならないほど精密かつ莫大なエネルギーが必要

P I C

慣性制御という機能を持つナノマシンがコアに存在する。

重力、空気抵抗をかなりの力で軽減出来るが無視ではない。

IS世界についてのエネルギー解釈（後書き）

とりあえず出来る限り不都合が無いように設定を作ってみました。
なお原作7巻まででの情報で構成されているのでそれ以降は知りません^^；

なお後付武装は普通の燃料を使っていると思われる。

次回プロローグ

ブローグ

2011/06/21 11:07・編集・削除

「遅いぞ、一夏！」

放課後の上空。一組の男女が飛び交っていた。

形勢は女の方が優勢で男も食い下がりはするものの無尽蔵のエネルギーを以て追い詰める。

「ぐっ！ 箒の奴もう『絢爛舞踏』のコツ覚えたのか。」

三次元躍動旋回 クロスグリッドターン による方向転換と同時に男の機体『白式雪羅』が荷電粒子砲を放つ。

が、女の機体『紅椿』の刀のエネルギー斬撃が相殺する。

「はあああああっ！」

『瞬時加速 イグニッションブースト』で一気に箒が接近する。そのまま流れるように胴払い。白式のシールドエネルギーが瞬く間に減少する。

「終わりだ、一夏！」

「っしやあ！ 来やがれ箒！」

再び瞬時加速でトップスピードを叩き出す二人。

お互いの斬撃がぶつかり、火花を散らしアリーナの空に消えていった。

『インフィニットストラトス』

通称IS

強化パワードスーツとも言つべきそれが世界に「突如」現れたのはまだ数年前のことだった。

戦後、武力放棄を守り続けてきた小さな島国から生まれた一つの

兵器がきつかけだった。

同時期に起きたハッキングによるテロ。これを単機で止めるということで皮肉にもISは世界中の脅威として脚光を浴びた。

現代兵器を遥かに凌ぐ性能を持ち、世界の軍事情勢に核が開発されたときのような衝撃を与えた。

技術面においてもIS自体に使われる『ナノマシン』『素粒子』をはじめ机上で空論だった技術が実用化されることとなり、兵器、医療、輸送技術などの発展により文明を一足とばして進めると注目された。

だが一方で社会的な問題も併発した。

『女尊男卑』の社会。いや、厳密には女尊男卑と勘違いした者が増えた社会というべきか。

ISは致命的な欠点を抱えていた。女性『は』動かせるということとであった。

その理由は遺伝子などの生物的な理由なのかはたまたま発明した者の気まぐれなのかは定かではない。

ともあれ乗ってもいないISを自分の手柄のように語る女性が増えたこと。にも関わらず法的には未だ女性有利な実状が拍車をかけたのだろう。

さらに時は流れ数年後、極東の島国がまたも世界を震撼させた

織斑一夏

一夜にして世界一有名な男になりあがった少年。

唯一ISを動かせる男

彼は後にこう語っている

「一生を決める出来事というのは誰しも必ず存在する。少なくとも俺は2度経験した。」

一つ目は間違ってISを起動したこと

二つ目は……

1話

7月某日……

「まだ夏の頭だったのにあつついなあ……世界中で異常気象ってつーけどこれがそうなのか」

五反田家の扉（正確には五反田食堂の裏口だが）を出ると織斑一夏はそうばやいた。

都内某所にひっそり……というほどではないがまあ地味な、よく言えば庶民的な食堂から今や世界のスター並みの知名度を誇るが人間が出てくるといふのは見る人にとっては場違いない光景だろう。最も当人は毛ほども気にしてない上、どちらかといえば奇異の視線の方が多いのだが。

「おう、一夏また来いよ。つーか来てくれないと俺が蘭に殺される。」

続いて茶髪にロン毛をヘアバンドで押さえた少年がこれまた気だるそうに出てくる。

「おいおい、弾。お前この店の跡取りだろ。妹に殺されるってどうなんだよ。」

「お前はわかってないよ、現実って奴が。爺は蘭に激甘だし、母親は何も言わない。女尊男卑の煽りを一番受けてるのは我が家だよ。」

「いや、多分世界がどうだろうとお前の家は関係ない」

マジかよ……と項垂れオーバーに膝をつく親友に苦笑すると一夏

はぼんやりと空を見上げた。

天気はあいにくの曇り空。日本の夏特有のジメジメとした湿気が非常に不快でしかたがない。

「あゝいつそ俺も学生寮とか入ろうかな。いい加減辛いわ……。どうにも受験校の選択ミスったわ」

「ん？ お前の学校って学生寮あるのか？」

「いや、ねーよ。あつたら苦労しねえわ。」

もううつんざりとばかりに弾が手を振る。

「聖十字学園は一度入ると長期休暇でしか家に帰れないっていうし、それはそれで極端なんだよな……」

「蒼花高校じゃなきゃ俺は良かったよ。あそこはカルト宗教だしな……」

高校受験の時に藍越学園以外の選択肢の一つに聖十字学園という高校があった。

IS学園と反対の山側に位置するマンモス校で、こちらも宗教色の強い学校だがさして強制されることも無く、国際交流に力を入れているためIS学園とは違った意味で多国籍になっているらしい。

今現在、企業や社会に必要とされている国際的な人材を育成し、全寮制という逃げ場のない環境がエリートをボコボコ量産する。教育熱心な保護者にとっては是非ともいいたい学校である。

とはいえ二人の場合、2つの高い壁が立ち塞がった。

将来的、長期的に考えればそちらも十分に魅力的で姉孝行出来たかもしれないが、まだ年若い姉に高い学費を負担させることや出来る限りの早い自立という点で一夏は藍越学園を選択した。

弾の場合は単純で純粋に学力が足りなかったからである。もちろん奨学金や特待生などの制度は充実している学校ではあったものの

過去問を一目みて心がポツキリ折れたらしい。

そこそこ勉強しつつやっぱり学生だから遊びたい、という今日、普通の高校生である弾にとって24時間生活を拘束されるというのが引っ掛かった。

「それに蔵さん、学費高いの絶対嫌がるだろ」

「ったく、そうなんだよ。うちの爺は『タダはいい。タダであればあるほどいい』って考え方だからよ。挙げ句、『お前に高い学費を払う価値はない』とまで言いやがったし——あれ？ 目から汗が……」

思い出したのか目にうつすら涙まで浮かんでいる。

「でも蘭はエスカレーター式のお嬢様校なんだろ？」

「ああ……あの時ばかりは家出も辞さない覚悟だった。兄の報われなさか『僕妹』の主人公並に辛かった。しかも全くデレがない」

一夏はハイハイと相槌をうちながらもその様子を羨ましそうに眺めていた。学校なんて穴を探せばいくらだって見つかるもので、他校のいいところばかり目につくものである。

同学年の友人（男）に合わせて近場のランクも普通の高校行けた弾も結局は幸せな学園生活に思える。

少なくとも強制的にES学園に入れられた自分より選択の自由というやつはあったと感じてしまう。

「やっぱり彼女作って高校生活を薔薇色に変えるしか俺に残された道はないな。来年には修学旅行行き終わってるし、せめてそこで女の子と……」

「お前、相変わらずそればっかだよな。それに何年越しの計画なんだよ……せめて今月中とかにしるよ。ちなみに俺は3日後に臨海学

校ですよつと」

口を開けば彼女が欲しいだの、ハーレム羨ましいしか言わないのに随分志の低いことだ。

IS学園の臨海学校。正式には『校外特別実習期間』

学外での運用を実習するため……という名目で広範囲を貸し切つての課外活動である。

税金でやりたい放題ともいえる規模の大きさ。もちろんデータ収集などは最優先で行うがわざわざ海に来てデータとにらめっこして帰すというほど学園側も無粋ではないということである。

実際、大会だの対抗戦だのとイベントの多いIS学園だが今年は不測の事態が多発してきたため生徒の期待がとてつもないほどピークに達している。

本来ならば特殊機関という存在なのでそんなことしている場合ではないのだが、思春期の女子ということを考慮しているのだろう。多感な時期だし、過度なストレスは操縦や学業に悪影響だと考えているのだろう。

「お前……もういい加減にしろ！」

聞いた瞬間、弾がキレた。もう血眼でとびかからんばかりの勢いにさすがの一夏も苦笑い。

「臨海学校といや海だろ。水着だろ。しかも周りは女の子しかないってふざけん——」

「お兄！ さつさと店の手伝い来いっ言ってるでしょうが——！」

さらに上回る怒声が上がった。

「お、蘭か、久しぶり。お邪魔してるぞ」

さして驚くこともなく少女の名前を呼んだ。

ショートパンツにタンクトップ。それにエプロンと随分ラフな格

好。

顔は釣り目がちでキリツとした顔立ちをしており、将来は間違いなく「出来る女」といった感じの美少女。

男にはもちろんだがも女子にもモテるポテンシャルを秘めている。横に並ぶとお揃いのヘアバンド以外はつくづく対照的な兄妹である。

太ももや腋、ヘソなど露出が多めでこれはこれで健康的な女の子としての魅力が引き立っている。

IS学校の女の子も季節柄似たような格好をしているせいで流石にいちいち興奮することはないが、魅力的なものは魅力的。

弾や鈴にはいろいろこき下ろされてはいるが織斑一夏も恋愛対象は異性のごく普通な高校生である。

「あ、あのつ、もうお帰りになるんですか……？」

予想外の来客の存在にしどろもどろする蘭の姿はもともと小柄な体がより小さく見える。

「ああ、うん。まあアポなしで来たら弾が手伝いあるって言うからな」

「そ、そうですね……」

犬だったら耳がたれているような様子だ。もともと兄以外には激しく感情を出さないのか彼女に怒られた記憶がない。一夏としてはもっと兄の親友として頼って欲しいのだが。

「蘭、お前なあ、外で大声出すなよ。近所迷惑だし、お客さんにも……と俺は思います」

正論を言っていたはずの弾がみるみるうちに萎んでいく。数分前にキれていた姿はどこへやら。

「……何で一夏さんが来ていると言わないのよ……」
「い、いや少ししか時間取れないし言うほどでもないかなってな。
ハハハ……」

ギロリと弾を睨み付けると蘭はそそくさと戻っていった。

「すまん。蘭怒らせちゃったな。謝ってたって言っておいてくれ」

「……ふう、こいつは酷い。」

「だから悪かったって」

「そういう意味じゃないんだがな。一夏は少しはギャルゲーとかやれよ。このギャルゲー野郎」

はあ、とため息を漏らす弾。

「じゃあまた別の日に来いよ！　そのときは可愛い女の子一杯連れて来いよ。」

「はいはい、考えておくよ。」

「絶対だぞ！！　連れてこなかったら家いれねーから！」

なんだかよくわからないが弾が燃えていた。

同級生の女の子で満足じゃないのか？　というツツコミは再び苦笑いで飲み込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2318x/>

一夏「エクソシスト？」

2011年11月10日02時29分発行